

鷹產地

〔毛吹草〕^三美濃 北山鶴^{ハシタカ} 飛驒 鷄^{ハシタカ} 陸奥 鷹 但馬 鷹 伊豫 白岑鶴

〔雍州府志〕^八古蹟鷹峯 在洛北乾隅斯處有三峯所謂天峯鷲峯鷹峯是也中古至秋冬此峯上設鷹網以執鴉是謂打鷹是稱網懸鷹世謂鷹峯鷹或有月輪鷹自此兩處打來者間有逸物云倭俗大鷹并猫之俊逸者是稱逸物

○按ズルニ鷹產地ノ事ハ遊戯部放鷹篇ニモ見エタリ參看スベシ

鷹事蹟

〔日本書紀〕^{仁德}四十二年九月庚子朔依網屯倉阿弭古捕異鳥獻於天皇曰臣每張網捕鳥未曾得是鳥之類故奇而獻之天皇召酒君示鳥曰是何鳥矣酒君對曰此鳥類多在百濟得馴而能從人亦捷飛之掠諸鳥百濟俗號此鳥曰俱知^{是今時鷹也}乃授酒君令養馴未幾時而得馴酒君則以韋縉著其足以小

鈴著其尾居腕上獻于天皇是日幸百舌鳥野而遊獵時雌雉多起乃放鷹令捕忽獲數十雉是月甫定鷹甘部故時人號其養鷹之處曰鷹甘邑也

○按ズルニ放鷹ノ事ハ遊戯部放鷹篇ニ詳ナリ

〔日本紀略〕^{桓武}延曆十七年閏五月癸酉先是主鷹司於北山造巢放二鶴子即生三雛於御前養長之天皇甚愛翫詔曰云云授位令群臣賦詩

〔古今著聞集〕^{二十}魚虫禽獸攝津國岐志庄に一丈あまりばかりなる蛇の耳おひたる時々出現して人をなやましけり見あふもの必やみければ此蛇出たると聞ては村人門戸をとちてにげかくれ

ける程に同住人左近將監なにかしとかやいふなるおのこくまだかを養けりある日此蛇いでたりけるにれいのことなれば里人かくれまよひけるに蛇くまだかに目をかけてはひ行くまだかもまた身をほそめ毛をひきて蛇に目をかけてありけるほどにまばしばかりありて此蛇くまだかのをりのもとにすでに近付ぬ件のをりはほそき木をつちに打立て有物にて侍るを此蛇をりのはざまよりがしらをさし入てのまんとするをくまだか蛇の頭より下五六寸計を